

今回は、不運から見事に立ち直った人の話です。

北海道の登別温泉に 1200 人収容という世界最大の観光温泉旅館・第一滝本館というのがあります。昭和 2 年に、南外吉(みなみそときち)という人が買いとったものです。南外吉は、空知川で船運、水運会社を経営していました。船の上り下りの船賃で巨万の富を築きましたが、台風で洪水にあい倉庫も船も流されて無一文になりました。それで、札幌で風呂屋の三助さんをする事になりました。そのうち札幌の家々が個人でお風呂を持つようになり、公衆浴場が流行らなくなったんです。今度は北見のに 300 坪の土地を借りて、大豆の作付けをするんですが、大豊作で翌年に全財産で 3000 坪の土地を借りて作付けをしたら、今度は大雨で全然収穫ができなくなって、また無一文になり、それどころか借金を抱えてしまうんです。その後は、息子を旅館に養子にやっていたので、息子にやっかいになるかたちで、その宿の下男という仕事で勤めることになりました。苫小牧の駅前で、旅館の案内をするために吹雪の中ずーっと立って客を待っていたそうです。登別温泉に 2 軒の旅館があって、老夫婦が経営していたんですが、後継者がいなくて「誰か買ってくれる人はいないか」と言っているときに、登別森林軌道の社長がいて「あんた、滝本館を買わないか」と外吉にもちかけたんです。一方は小さな旅館の釜焚き男、一方は森林軌道の社長、どこに接点があったのかというと、この社長は、毎日毎日吹雪の中でも必ず駅で立ちつくして客を待って呼んでいる外吉の姿をずーっと見ていたんです。外吉が「私は釜焚き男をしていて蓄えなどないし、そういうお金はないから…」とその申し出を断ったら、その社長は「そんなのはわかっている。私が全部貸してあげるから、お金ができたら返してくれ」と言った。外吉は滝本館を買いとって、その結果、なんと 5 室の滝本館を 30 年間に 400 室の世界最大の温泉旅館にしたんです。こうして大成功者となったのです。外吉という人は、夜 12 時前に寝たことはなく、朝は午前 4 時以降に起きたことはなかったそうです。どんなにひどいときであっても、いつもニコニコして働き者であったそうです。投げやりになるなんてことは、まったくなかったそうです。どこかにこの人の〈失敗〉というのがあるのでしょうか。どこに不運というのがあるのでしょうか?このような話を知っているのと知らないのとでは、人生、全然違いますね。外吉がものすごく大きな足跡を残したというのは、旅館を 5 室から 400 室にしたことではなく、どんなときでも愚痴を言ったことがないんです。いつもニコニコと、どうしてそんなにひどい目に 4 回も遭ったのに、何でニコニコしてられるのか。外吉は、不平不満、愚痴、泣き言、悪口、文句を言う人ではなかった、ということです。いつも自分に与えられた運命の中で、ずーっとただひたすらやり続けた人だった。人一倍大きな飛躍する人には、人一倍大きな一般的に言う挫折・つらいことが来ます。そのときに、ぐずぐず〈不平不満、愚痴、泣き言、悪口、文句〉…これらを〈五戒〉と言いますが…を口にするかどうかを、実は神さまから問われている。倒産がいけないとか、倒産がひどいというのは、すごい狭い考え方をしていますね。職業なんか何をやってもいい。どんな所でもいいんです。いかに〈五戒〉を言わずに笑顔で生きているか、を常に神さまから見られているんですよ。

Q 1 : 外吉が残した大きな足跡は何ですか? A 1 :

()

Q 2 : 挫折・つらいことが起きた時、五戒を言いますか?それとも他に何か心がけていますか?

A 2 : ()